

9. 第2ゾーン、古墳のつくられた時代

ここ第2ゾーンでは、巨大な前方後円墳が造られた3世紀後半から6世紀までのようすを紹介します。この時代に造られた古墳の正確な数はわかりませんが、30万基とも40万基とも言われています。卑弥呼が亡くなった頃から聖徳太子が活躍した頃まで、およそ300年以上の長い期間にわたる古墳やその遺物の移り変わりをこのゾーンに展示しています。

古墳時代は前期・中期・後期の3つの時期に分けられます。ここでは、古いほうから順番に前期→中期→後期と進みながらご覧いただきます。それぞれの見どころは、古墳時代前期は三角縁神獣鏡（さんかくぶちしんじゅうきょう）をはじめとした銅鏡などの副葬品、古墳時代中期は甲冑（よろい・かぶと）や武器などのさまざまな鉄製品、古墳時代後期は黄泉（よみ）の世界にほかならない横穴式石室と金色に輝く副葬品です。ほかにも古墳に立て並べられたさまざまな形の埴輪や亡くなった人を納める石の棺などがあります。

古墳時代というと、お墓である古墳ばかりに目がいきがちですが、須恵器という新しい焼き物の技術やさまざまな金属加工の技術などがもたらされたことによって、人々の暮らしぶりも変化することにも注目してください。